

建設みえ

No.313

令和7年1月5日発行
(奇数月発行)



もくじ

- 新年のごあいさつ
 - ・(一社)三重県建設業協会 会長 竹上亀代司……2
 - ・三重県知事 一見勝之 ……………3
 - ・国土交通省 中部地方整備局局长 佐藤寿延……4
 - ・(一社)全国建設業協会 会長 今井雅則……5
 - ・(独)勤労者退職金共済機構 理事長 梅森徹……6
- 県立高校(建設関係学科設置校)
進路指導担当教諭等との情報交換会を開催……7
- 令和6年度 高校生建設現場見学会を開催 ……10
- 三重県建設雇用改善推進大会を開催 ……12
- 三重建協女性部会「パールこまち」
令和6年度活動報告 ……15
- おしらせ① ……18
- 会員の異動 ……19
- 協会日誌 ……20

2025. JAN.

1

発行所/一般社団法人三重県建設業協会

〒514-0003 津市桜橋二丁目177の2

TEL. 059-224-4116

発行人/稗田寿次郎・編集人/坂三雅人

編集協力/㈱建通新聞社



新年のごあいさつ

一般社団法人 三重県建設業協会

会長 竹上 亀代司

新年あけましておめでとうございます。
皆様には、健やかで明るい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は、三重県建設業協会の事業活動に対し格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年6月に三重県建設業協会会長に就任し、早や半年以上が過ぎました。これまで先輩方が築き上げてきた、歴史と伝統のある建設業協会の発展のため、副会長をはじめ、役員、会員の皆様のご協力を賜りながら尽力していきたいと考えております。

昨年を振り返りますと、元旦には、能登半島地震、9月には、同じ能登半島での豪雨による甚大な被害に、深く心を痛めたところです。

こうした災害を目の当たりにし、本県が、能登半島と同じ半島地域をもつこと、また、南海トラフ地震による大きな被害が想定される県であることから、協会としても、備えをしっかりとしていかなければならないと思うところです。

協会では、毎年、全会員による災害対応実働訓練を実施しており、11月12日には約600名の参加の下、尾鷲市において訓練を実施いたしました。

実働訓練も本年度で10回目を迎え、道路啓開など様々な訓練を重ねることで、緊急時の実効性や迅速性が高まってきていると確信しております。

昨年8月末には、台風10号の影響で降雨が続き、線状降水帯が発生するなど県内で記録的な大雨となり、松阪市の堀坂川堤防が一部崩壊、近隣の住宅への影響が危惧されるなか、建設業協会松阪支部の会員企業による速やかな応急復旧作業により被害を最小限にとどめられました。

地震や豪雨による大規模な被害発生時の復旧・復興支援については、協会会員は、使命感を持って県内、県外を問わず対応しているところであり、今後も引き続き、災害時の安全・安心の確保を担う「地域の守り手」としての役割を果たしていかなければならないと考えております。

建設産業を取り巻く現状については、労働力不足が一層懸念され、また、令和6年4月から適用され

た時間外上限規制をはじめとする働き方改革などさまざまな対応が求められるなか、改正担い手三法により、地域の守り手である建設業が役割を果たし続けられるよう、労働者の処遇改善や生産性向上を図り担い手確保のための施策が図られています。

このため、協会では会員企業の技術者等の定着及び育成を目的に、本年度新たに「技術者育成委員会」を設置して技術者等のキャリアアップや若手技術者の定着の取組を進めています。

また、女性が生き生きと活躍でき男女ともに働きやすい環境づくりに取り組んでおり、女性部会（「パールこまち」）の取組として、県内3会場でセミナーを開催するとともに、岐阜県の女性専門委員会（「Renge」）と津市内で交流会を実施するなど、女性ならではの視点で建設業を盛り上げていこうとする気運が高まってきています。

最後に、公共事業予算の確保については、建設産業が様々な社会的役割を果たし、将来にわたって地域を支え続ける存在であるためにも、国会議員をはじめ、国土交通省本省、中部地方整備局、三重県知事などに対し、十分な予算確保を要望しているところです。

また、次期国土強靱化中期計画については、見直し時期が迫っておりますが、全国建設業協会として国に対し、5年間で25兆円という現行計画を大幅に上回る事業量の確保を要望したところです。

建設産業は、災害時の「地域の守り手」として、また、活力ある未来を築き社会資本整備を支える不可欠な産業としての役割を果たすため、関係機関とも連携をとり、様々な課題に前向きに取り組んで参りたいと考えておりますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様の一層の発展とご活躍、ご多幸を心よりご祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

三重県知事

一見勝之

令和7年の新春を迎え、謹んで年頭の挨拶を申し上げます。

平素は、三重県の事業推進に格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

三重県では、県民の皆さんが未来に希望を持ち、安全・安心に暮らすことのできる持続可能な地域を創っていくため、県政運営の指針となる長期ビジョン「強じんな美し国ビジョンみえ」とともに、中期の戦略計画「みえ元気プラン」を令和4年10月に策定し、新しい三重づくりを進めています。

本プランでは、安全・安心の確保に対応する「災害に強い県土づくり」、活力ある産業・地域づくりに対応する「道路・港湾整備の推進」や「安全で快適な住まいまちづくり」などの施策を展開するとともに、「公共事業推進の支援」などこれらの施策を推進するために行う効果的な行政運営にも取り組んでいるところです。また、令和8年度までに積極果敢に対応していく課題として、「大規模災害に対応した防災・減災、県土の強靱化対策の加速・深化」も推進しています。

昨年は、能登半島地震、台風第10号の発生、南海トラフ地震臨時情報が発表されるなど、自然災害への備えやインフラ施設の強靱化、建設業界が担う役割の重要性が再認識された年でありました。三重県では、能登半島地震の被災地へ派遣された県・市町・防災関係機関職員の支援活動を通じて得た『気づき』を踏まえ、木造住宅耐震改修に対する補助限度額を拡充するとともに、災害時における仮設トイレ等にかかるあっせん・供給について協定を結ぶなど、南海トラフ地震に備えて対策を進めています。

また、貴協会においては、日ごろからの県民生活に必要な社会資本の整備・維持修繕に加え、自然災害発生に際しての緊急対応にご協力いただき誠にありがとうございます。昨年8月の台風第10号の際には、会員企業の皆さんが休日・夜間も含めて対応いただき、被害の拡大を防止することができました。

これも、毎年貴協会が主催する災害対応訓練など、日ごろから災害に備えていただいているおかげであり、感謝申し上げます。災害への備えや防災・減災、国土強靱化の取組を進めるために、引き続きお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

一方で、地域の建設業の多くは、就業者の高齢化や、若手入職者の減少等による担い手不足等、厳しい経営環境におかれています。さらに、物価高対策など建設業が抱える課題に対しても喫緊に対応していく必要があります。

三重県では、建設産業活性化プラン2024を策定し、『担い手の確保』『労働環境の改善』『生産性の向上』の三つの取組方針と、その三つを支える『企業の安定経営に向けた取組』の方針を掲げ施策を実施しているところです。具体的には、担い手確保に向けた教育機関との連携支援、労働環境改善のための週休2日制の定着やバックオフィス導入への支援、生産性向上のための建設DXの導入の支援を進めるとともに、企業の安定経営に向けての適正な利潤の確保に向けた取組を進めていきます。

県民の皆さんの命を守るために、建設業界と県がタッグを組んで、安全に安心して暮らすことのできる県土づくりに取り組むとともに、「地域の守り手」として未来に存続し続ける建設業の実現をめざして尽力してまいりますので、今後ご支援賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さんにとって幸多く、明るい年となりますことを心から祈念申し上げます。



新年のごあいさつ

国土交通省 中部地方整備局

局長 佐藤 寿延

明けましておめでとうございます。令和7年（2025年）の年初に当たりご挨拶申し上げます。

本年は、中部地方整備局管内において42.6kmの高規格道路、直轄国道が新たに開通します。直近10年では一番長い延長となります。

期間の長い道路では約半世紀の時を経ての開通になります。三重県建設業協会の会員の皆様におかれましては、東海環状自動車道や北勢バイパスなどの整備についてご協力をいただきありがとうございます。

道路がつながることで、その地域だけではなく、広いエリアで大きな効果が出てくることを期待しています。中部圏全体に様々な波及効果がでてくると考えています。

現在、「つながる中部42.6」と銘打ち経済界等も巻き込みながらキャンペーンを行っています。

まさに、開通に向け、ラストスパートの段階ですが、工事の安全の確保にも万全を期しつつ取り組みます。

また、河川事業においては、昨年11月23日には設楽ダム本体着工式を開催するとともに、新丸山ダムにおいても、11月20日に減勢工部へのコンクリート初打設を行うなど、長期間かかってきた事業について、新たな局面へと踏み出したところです。また、木曾川水系連絡導水路事業についても、ダム検証手続きを終え、建設段階に向けて駒を進めることができました。

過去から積み重ねてきた事業について完了のメドが近づきつつある一方で、次の中部圏を担うインフラをしっかりと計画し、事業化に向けて進めることが重要です。令和7年は、今までの事業の成果を出すとともに、新たな中部圏の姿を打ち出す年と考えています。

具体的には、道路については、名古屋港を中心に東西に半円状となる一宮西港道路や愛知県が検討を進めている名古屋三河道路等をはじめ約100kmの路線について検討、手続きを進めています。河川については、天竜川ダム再編事業により佐久間ダムの再生の検討を進めるとともに、狩野川放水路の増強など大規模事業についても具体化を図ることとしてい

ます。これらも含め、令和7年は次世代のプロジェクトを仕込む年です。

また、昨年8月には南海トラフ地震臨時情報が発表され、多くの人がその切迫性を感じたと思います。元旦には能登半島地震があり、半島部等の脆弱性があらためて認識されたのではないのでしょうか。

中部地方は、南海トラフ地震の被害想定が最も大きい地域であり、これらへの対応は待ったなしです。能登半島地震を踏まえ、伊豆エリア、伊勢志摩・東紀州エリアを対象に、半島・沿岸初動戦略検討会を設置しました。また、昨年4月には、水道事業が厚生労働省から国土交通省に移管されたところですが、南海トラフ地震により1,000万人規模の大規模断水が生じると想定されており、これへの対応も進めているところです。いつ起こるかわからない災害に対して、緊張感を持って臨んでいます。

2024年の建設業への時間外労働の上限規制の適用開始から1年近くが経ちます。我々も採用活動を通じて、担い手となる世代との交流がありますが、彼ら、彼女らに、将来のやりがいを感じて、職場として選択いただくためには、賃金水準もさることながら働き方改革を推し進めることは重要です。建設業協会とも連携しながら、建設業全体の魅力発信にも務めたいと思います。本年もよろしく願いいたします。



令和7年 年頭所感

一般社団法人 全国建設業協会

会長 今井 雅 則

令和7年の新春を迎え、謹んで年頭の挨拶を申し上げます。

平素は、全建の事業活動に対し格別のご支援・ご協力を賜り、深く感謝いたします。

地域建設業を取り巻く環境は、昨年も資機材価格の高騰等の影響を大きく受けたほか、能登半島を襲った地震・豪雨の二重災害や日向灘地震など、全国各地で大規模な災害が発生し、土砂崩れや河川の氾濫等により多くの国民の生命・財産に甚大な被害をもたらした1年となりました。地球温暖化による豪雨・豪雪の増加、熱中症や感染症への懸念も深刻さを増しています。

地域建設業は、社会資本整備や維持管理の担い手として地方創生の中心的な存在であり、災害時には最前線で復旧・復興に取り組む「地域の守り手」としての使命を担っています。これらの社会的使命を担う建設業が存在し続けるためには、健全で安定した経営が必要であり、そのためには、見える化された安定的・持続的な事業量が必要です。そして、それを基にした経営の見通しが立つような長期的事業計画を持てることが不可欠です。

このため、全建といたしましては、公共事業費を含む令和7年度予算の早期成立とともに、引き続き、国土強靱化実施中期計画の早期策定や同計画における現加速化対策を大幅に上回る事業量の確保を求めまいります。

また、将来の担い手確保のため、建設業で働く人々や建設業を目指す若者が、夢と誇りをもって活躍できる希望に満ちた、憧れの産業となるよう、“新4K”の実現に向け、処遇改善、働き方改革の推進や生産性の向上等を早急に進めることも重要です。

全建といたしましては、公共工事設計労務単価の一層の引上げと、建設業従事者の賃上げのための現場管理費、一般管理費の引上げを求めるとともに、昨年4月から時間外労働の罰則付き上限規制が建設業にも適用されたことも踏まえ、「2+360（ツ-

ラスサンロクマル）運動」、「目指せ！建設現場土日一斉閉所運動」を進めるほか、ICT・DXの推進、広報活動等にも引き続き積極的に取り組んでまいります。

本年も、全建は47都道府県建設業協会並びに会員企業の皆様方と一体となり、地域建設業発展のため全力で取り組む所存でございますので、ご理解とご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様方の益々のご多幸とご健勝を祈念し、また建設業が大きく飛躍することを願ひまして、私の年頭の挨拶とさせていただきます。



令和7年 新春挨拶

独立行政法人 勤労者退職金共済機構

理事長 梅 森 徹

令和7年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様には、昨年建設業退職金共済制度（建退共制度）の運営に多大なご支援、ご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

建退共制度は、建設工事の第一線で働く労働者の皆様の福祉の増進と雇用の安定を図り、建設業を営む中小企業の福祉の振興を目的として、中小企業退職金共済法に基づき、昭和39年10月に創設され、本年で61年目を迎えます。

お蔭様で、建退共制度への加入契約者数は17万事業所、被共済者数は213万人を数え、これまで累計で277万人の退職者に対して2兆8百億円の退職金をお支払いしてまいりました。退職金を受け取られた皆様、事業主の皆様からは退職金があって本当に良かったという声を頂いており、建退共は現場で働く方々にとって重要な制度になっております。

さて、日本全体の生産年齢人口が減少する中、厳しい就労環境を背景に、建設業の就労者数は減少を続けており、将来の担い手確保は喫緊の課題となっています。

このような状況を受け、国民生活や社会経済を支える極めて重要な役割を担っている建設業がその役割を将来にわたって果たし続けられるようにするため、昨年の通常国会において、担い手確保、生産性向上、地域における対応力強化を目的とした担い手三法の改正が行われました。

建設労働者が希望と誇りを持って働き、次世代に技術・技能を引き継いでいくことができる労働環境を整備していくため、我々も、建設労働者の将来の安心を担う制度を運営する立場としての役割を果たしつつ、引き続き課題解決に向けて寄与してまいります。

また、昨年7月に国土交通省が取りまとめた「CCUS利用拡大に向けた3か年計画」において、「建退共のCCUS活用電子申請推進」「CCUSと建退共との連携完結」等が盛り込まれました。電子申請方式は、事業主の皆様の業務の効率化・事務負担軽減はもちろん、労働者への確実な掛金の納付が可能

であり、処遇改善に資するものと考えております。

本年秋からは、建設キャリアアップシステム（CCUS）の就業履歴をワンタッチで建退共の就労実績報告として登録可能とするなど、機能改善も予定しております。

ぜひ、積極的なご利用をお願い致します。

今後も建退共制度の安定的で効率的な運営に努め、確実な退職金の支給に努力して参る所存でございますので、建退共制度への加入、掛金の適正な納付及び電子申請方式利用の促進につきまして、更なるご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様方のご健勝とご隆昌を心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

県立高校（建設関係学科設置校） 進路指導担当教諭等との情報交換会を開催



当協会では担い手確保育成のため、若年建設従事者入職促進事業を行っています。この事業の一環として、令和6年12月10日（火）三重県建設産業会館会議室において、当協会総務委員と建設関係学科設置の県立高校進路指導担当教諭等との情報交換会を開催しました。

当日は、三重県教育委員会事務局高校教育課キャリア教育班 岡 智之班長、三重労働局職業安定部訓練課 西山隆明課長補佐、三重県県土整備部 上村 告副部長、進路担当教諭5名（所用のため欠席の2名を除く）、当協会からは総務委員会担当 生川正洋副会長、井本伊織労働委員長、他11名の総務委員が出席しました。

初めに、協会事務局から若年建設従事者入職促進事業の概要について説明。次に、三重県県土整備部公共事業運営課 村田充弘課長より教育機関との連携取組について説明いただきました。

次に、各校の教諭から令和6年度の進路状況と、各学校での取組み（インターンシップ開催の有無、資格取得）、当協会（会員企業）への要望（インターンシップ、就職説明会、現場見学会、資格取得）について説明いただきました。

次に、参加いただいた進路指導教諭から当協会（会員企業）への要望について説明があり、担当支部の総務委員が回答を行い、担当高校の進路指導教諭に了解いただきました。



三重県教育委員会 キャリア教育班
岡 智之 班長



三重労働局 職業安定部
西山隆明 課長補佐



三重県県土整備部
上村 告 副部長

●令和6年度卒業者の状況（建設関係学科）

学校別

(単位：人)

学 校 名	卒業者	就 職	進 学	その他	建設業	その他
四日市中央工業	38	29	9	0	15	14
四日市工業	39	27	12	0	19	8
津工業	34	18	16	0	13	5
久居農林	29	24	4	1	9	15
相可	38	34	4	0	0	34
伊勢工業	38	22	16	0	10	12
伊賀白鳳	35	17	18	0	2	15
合 計	251	171	79	1	68	103

学科別

(単位：人)

学 科 名	卒業者	就 職	進 学	その他	建設業	その他
都市工学	38	29	9	0	15	14
建設工学	34	18	16	0	13	5
環境創造	38	34	4	0	0	34
環境土木	29	24	4	1	9	15
建 築	77	49	28	0	29	20
建築デザイン	35	17	18	0	2	15
合 計	251	171	79	1	68	103

●建設関係学科設置の県立高校

- 都市工学科 ————— 四日市中央工業高校
- 建設工学科 ————— 津工業高校
- 環境創造科 ————— 相可高校
- 環境土木科 ————— 久居農林高校
- 建 築 科 ————— 四日市工業高校・伊勢工業高校
- 建築デザイン科 ————— 伊賀白鳳高校

- ◎四日市工業高校 ————— 就職者の内訳その他（公務員2名）
- 相可高校 ————— 就職者の内訳その他（公務員31名）

●【今年度の各学校での取組みについて(できるだけ具体的に)教えて下さい。】
(インターンシップ開催有無・資格取得についてなど)

●四日市工業

- インターンシップは建築科2年生の生徒のうち、希望者12名が、夏季休業中の2日間参加
- 建設業経理事務士講習会 4級34名、3級32名参加、建築科1年生が夏季休業中に参加
- 2級建築施工管理技術検定 令和6年度後期に3年生6名、2年生25名が受験予定

●久居農林

- 津、松阪の商工会議所を通じてインターンシップを実施している。
測量士補、2級土木施工技術検定、トレース検定、CAD検定、フォークリフト技能講習、無人航空機操縦士等に取組んでいる。

●津工業

- インターンシップについては希望者に対し夏休み中に実施しています。
今年度未実施、昨年度建築コースで実施、津支部様にご対応いただきました。
- 資格について
建設業経理事務士 4・3級 本校にて実施
2級土木施工：(公財)建設技術センター様主催 学習会参加
測量士補(土木)、2級建築施工(建築)、各コースにて補修等で対応

●伊勢工業

進路指導部による取り組み

- 在卒懇談会(卒業生と3年生との会) 6月
- インターンシップ 7・8月 → 報告会 10月
- 体験報告会(3年生が下級生に報告) 12月
- ガイダンス(企業、学校説明会) 11月、3月

●伊賀白鳳

- 2年生
10/21 インターロッキング出前授業(伊賀支部協力)
11/1 現場見学会(三重県建設業協会協力)
11/12~14 インターンシップ
- 1・2年生 2月頃 現場見学会(伊賀支部協力) 旧伊賀市役所改修工事
- 資格
建築CAD検定 4級 22名受験 22名合格 12名受験予定(1月)
3級 10名受験 8名合格
準2級 4名受験予定(1月)
2級施工管理 13名受験 1名合格
技能検定(3級家具製作技能士) 4名受験予定(1月)



令和6年度 高校生建設現場見学会を開催



一般社団法人三重県建設業協会では建設業に対する理解の増進と若年者の建設産業への入職促進並びに建設業に対するイメージアップを図ることを目的に、平成3年度より建設関係学科設置高校で勉強する生徒さんを対象に「高校生建設現場見学会」を開催しております。また、平成30年度からはその範囲を普通科高校にも広げ、見学を希望された普通科高校の生徒さんも含めて見学会を実施しております。

今年度は10月24から11月25日に、県内の高等学校9校と工業高等専門学校1校に対して見学会を開催し、345名の皆さんに実際の建設現場を見学していただきました。

見学会の開催にあたり、今年度も多くの発注者様、施工者様のご好意で見学現場が重なることなく、大変ありがたく皆様に感謝いたしております。

毎年の事ですが、多忙な中スケジュールの調整や、現場作業が中断するなどのご迷惑をおかけしますが皆様が快く協力していただき、この行事を開催することが出来ております。

見学会当日は、現場において事業の概要や工事の概要を具体的に説明いただき、現場における役割分担や現場管理の重要性についてお話をいただきました。

また、今回から前もって生徒の皆さんから質問をいただき、当日現場で回答をいただき





ました。さらに、普段は立ち入ることのできない工事現場に入り、重機の試乗体験、VR体験、ドローンによる空撮見学などを行うとともに、最新のIT技術を用いた施工管理について説明をいただきました。

参加した生徒からは「現場見学をして、初めての事をたくさん経験することが出来、将来について考える機会が出来て良かったです。」「優しく説明してもらい、VRを使っていると教わり昔とは違うと思った」「普段見れな

い作業途中の所を見れてとても面白かったです。」「私たちが日頃何げなく通っている道路が皆さんの工事によりできていること、地図に残る仕事であることを改めて感じました。」などの感想が寄せられました。

今後も当協会では建設産業の発展のため、高校生の建設現場見学会を開催してまいります。

建設現場見学会の開催高校と見学現場は以下のとおりです。

令和6年度 高校生建設現場見学会 実施結果一覧表

(敬称省略)

高校名	学科	実施日	見学現場	備考
伊勢工業	建築科	10月24日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度 南伊勢町立なかよし保育園新築工事 施工者：稲葉・南建JV 伊勢市上下水道部庁舎建設工事 施工者：吉川・伊藤工務店・西邦JV 	2年生対象(2名)35人
石栗師	普通科	10月30日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 白子中学校校長舎長寿命化改修建築工事(本館校舎棟) 施工者：(株)杉之内工務店 一般国道306号道路交通安全対策(人道橋下部工)工事 施工者：須賀(株) 	1年生対象(1名)7人
相可	環境創造科	10月31日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度ため池(池震対)坊谷池地区(緊急対策分)県営ため池等整備事業堤体工その2工事 施工者：中村土建(株) 令和4年度 宮川流域下水道(宮川処理区)内宮幹線(第6-2工区)管渠工事 施工者：山野・西邦・西山JV 	2年生対象(2名)39人
紀南	普通科	10月31日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 一般国道311号(湊川橋)橋梁下部工事 施工者：(株)井本組 令和5年度42号熊野IC建設工事 施工者：ユウテック(株) 	1年生対象(1名)6人
伊賀白鳳	建築デザイン科	11月1日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 旧上野庁舎改修工事 施工者：船谷・伊藤工務店・上野ハウスJV 北伊勢上野信用金庫 孤野支店新築工事 施工者：大宗建設(株) 	2年生対象(2名)30人
久居農林	環境土木科	11月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度 雲出川須ヶ瀬河道掘削工事 施工者：中井土木(株) 令和4年度 宮川流域下水道(宮川処理区)内宮幹線(第6-2工区)管渠工事 施工者：山野・西邦・西山JV 	1年生対象(2名)29人
四日市四郷	普通科	11月14日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 北勢バイパス坂部トンネル工事 施工者：大成ロテック・岡田工業JV 	1年生対象(2名)69人
四日市中央工業	都市工学科	11月18日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 四日市中央線道路整備工事(東工区その2) 施工者：富洋・中央JV 近鉄四日市駅前周辺(四日市中央線)整備工事 その6 その7 施工者：大成・信藤・中村JV 	1年生対象(2名)36人
四日市工業	建築科	11月19日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 北伊勢上野信用金庫 孤野支店新築工事 施工者：大宗建設(株) 鈴鹿市立河曲小学校屋内運動場増改築工事 施工者：(株)大野工務店 	2年生対象(2名)39人
近畿大学工業高等専門学校	都市環境コース	11月25日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 鈴鹿川上流部堤防整備工事 施工者：松岡建設(株) 旧上野庁舎改修工事 施工者：船谷・伊藤工務店・上野ハウスJV 	4年生対象(2名)37人

参加者：生徒327名 先生18名 合計345名

()内は先生の人数

令和6年度 三重県建設雇用改善推進大会を開催



厚生労働省三重労働基準局、東日本建設業保証株式会社、一般社団法人三重県建設業協会の主催、三重県の後援で令和6年度三重県建設雇用改善推進大会を令和6年11月21日（木）三重県総合文化センター内フレンテみえフレンテホールで開催しました。

この大会は、建設労働者の雇用改善について建設事業主をはじめとする関係者の理解と関心を深め、雇用改善意欲の高揚を図ることを目的に毎年実施しております。

大会は、一般社団法人三重県建設業協会の生川正洋副会長による開会挨拶で始まり、続いて厚生労働省三重労働基準局職業安定部職業対策課長 中村克彦 様と、三重県雇用経

済副部長 稲葉 崇 様からそれぞれ挨拶をいただいた後、来賓として出席いただいた国土交通省中部地方整備局建政部建設産業調整官 上原茂樹 様から祝辞を頂戴しました。

表彰式では建設雇用改善優良事業所三重県知事表彰として、建設労働者の雇用労働条件の改善、福祉の向上、労働災害防止などに積極的に取り組まれた功績により富山建設株式会社様の受賞となりました。

一般社団法人三重県建設業協会では、建設業で働かれてみえる皆様の建設業への熱い想いを伝えていただくと共に、一般の人たちに建設業の役割や重要性について理解と関心を高めていただくために、「建設産業と地域のつながり・伝えたい職人（プロ）のこだわり」をテーマに、作文の募集をいたしました。応募された作品を当協会の常置委員会である総務委員会メンバーにより厳正に審査した結果、朝日土木株式会社に勤務されてみえる、齋田龍佑 様の作品「建設業界で感じたこと」、同じく朝日土木株式会社に勤務されてみえる高木 隼 様の作品「地域密着、地元の建設会社」が三重県建設業協会会長表彰に選ばれ、本大会で表彰されました。

基調講演では、株式会社 建設経営サービス提携講師・株式会社エンパワーコミュニケーション代表取締役 鎌田 敏さんを講師に迎え「今日から出来る！安全・安心、職場の元気を支えるコミュニケーション術！」をテーマに講演をいただき、参加者の皆様に好評を得て終了することができました。



生川正洋 副会長



三重労働局 中村克彦 課長



三重県雇用経済部
稲葉 崇 副部長



中部地整備建政部
上原茂樹 建設産業調整官

「建設業界で感じたこと」 齋田龍佑（朝日土木 株式会社）

私が建設業界で働きたいと思った理由は、家族が建設業の会社を営んでおり父親が重機を操縦する姿を見て同じ業界で働きたいと考えたからです。また、道路や橋梁などは新設工事が少なくなっても修繕や復旧工事があるため、今後仕事が無くなることはないというところも働きたいと考えた理由です。

建設業に就職し、3か月の研修を経て堤防の嵩上工事の現場に配属されました。初めての現場では、先輩や作業員からいろんな事を教えてもらいながら現場を右往左往する毎日で、その日の作業を終えることで手一杯でした。工事が終了して完成した現場を見た時に達成感はありませんでしたが、「大変な一年だった」という思いの方が強かったのを覚えています。しかし、後日友人がSNSで自分が工事に関わった堤防を散歩している投稿を見て、工事が終わった時より大きなやりがいとうれしさを感じました。

また、直近の工事で舗装復旧の現場に配属された時は、地元住民の方が現場を見に来た時に「ご迷惑をおかけします」と話しかけると大抵の人が「頑張ってるね」や「舗装をきれいにしてくれて助かるわ」と返してくれました。また、舗装が完成した時は「ありがとう」と声をかけてもらいこの仕事を選んでよかったと感じました。

建設業に入るまでは、構造物を完成させること、自分が関わってできた構造物が地図に載ることだけが建設業のやりがいだと思っていました。しかし実際に現場に出ると建設業のやりがいは構造物を完成させることだけでなく、地域の人たちの役に立っていると実感できることだと感じました。

しかし、建設業がいくらやりがいのある仕事であるとしても、人材不足や労働環境などの大きな課題があるのが現状です。それらの要因として、建設業は『「きつい・汚い・危険」の3K』や休日出勤、夜間工事、拘束時間が長い、土方の人は怖いなどのイメージがついているからだと考えられます。私の友人に建設業のイメージについて質問をしてもやはり3Kのイメージが強いという答えが返ってきました。実際に現場では、作業服は汚れますし、重労働であるため身体的にきつく、作業している重機や工事車両が近くにあるなどの危険が常にあります。また、朝は作業開始時間より早くに現場事務所へ行き、

作業終了後は書類作成があるため残業が多くなることもあります。ですが、現在建設業のこれからの課題を解決するために『新3K「給与・休暇・希望」』の方針をはじめとする対策が進められています。例えば、長時間労働の是正措置として完全週休2日制の検討や業務効率の向上を目的とした建設DXの導入が進められています。また、安全面では資格の細分化や安全対策の強化、重機の遠隔操作技術の開発などが進められています。このような施策と福利厚生を充実させることにより働きやすい環境を整えると、以前の建設業のようなイメージは薄れていくと考えられます。

それでも、大多数の人は建設業に対して3Kのイメージが強く残っているため避けられやすい職場であることには変わりありません。特に、現在新社会人の子供を持つ親世代はその傾向が多くみられると思います。そのため、人材不足解消のカギとして新社会人だけでなく、その周囲の人にもわかるようなイメージアップのための施策が必要だと考えます。私が建設業に入ってから1年が経ち、入社当初に想像していたよりも仕事内容が難しく難儀していますが、とても面白くやりがいのある仕事だと感じています。しかし、魅力的な職業でも人材が確保できれば会社が回らなくなり、最終的には建設業界が衰退につながるため、新しい人材の加入だけでなく、既存の人材が離職しないような環境づくりも行っていく必要があると思いました。私にはそのような課題を解決するためにどのようなことをすればいいのかわかりませんが、自分の周囲の人だけでも建設業の悪いイメージを良いイメージに変えられるように頑張っていきたいと思っています。



「地域密着、地元の建設会社」 高木 隼（朝日土木 株式会社）

私が勤める朝日土木株式会社は三重県に本社を構え、創立七十年以上の歴史があり、主に三重県内の現場で施工をする会社です。職員は三重県出身のものが多く、生まれ育った地元を自分たちの手で施工する地域密着、地元の建設会社です。毎日通勤で走っている道路を舗装したり、高速道路の橋脚を作ったりと自分たちの生活に密着した仕事をしています。私自身も三重県桑名市長島町の出身で、長島町やその近辺での現場に携わってきました。

私の出身の長島町は輪中と呼ばれる地域で、島の両側を揖斐・長良川と木曾川に挟まれた海拔ゼロメートル地帯です。土地が低いので昔から災害も多く堤防を築き水害から町を守っています。私は入社二年目に長島町内の築堤工事に携わることができました。その現場では年々激甚化する災害への備えとして盛土を行い現況の堤防の補強を行いました。施工した延長は長島町全体の堤防からすると本当に少しの距離でしたが、自分の手で自分の生まれた町を良くすることができたのはこの仕事ならではの感動だと思います。今でもその場所を通ると当時の思い出がよみがえります。他にも隣の弥富市では堤防の液状化対策として地盤改良を行ったり、木曾崎町では川の中に石を投入し堤防を守るための水制工を行ったりしました。どの現場も普段生活する中でよく通る場所にあり、その場所で施工できたのは私にとってかけがえのない経験です。

そんな長島町の堤防もこれまで災害で壊れては作り替えられてきました。その中でも特に被害が大きかったのは、昭和三十四年の伊勢湾台風です。伊勢湾台風では死者・行方不明者の数は五千人を超え、明治以降の日本における台風の災害史上最悪の被害となりました。私の実家近くの集会所には当時の伊勢湾台風水位が看板に記録されており、地域のほとんどの家が浸かるほどの高さでそこから被害の大きさがうかがえます。その伊勢湾台風からの復興事業には多くの建設会社が携わりましたが、朝日土木も携わっていたことを知ったとき会社の歴史の長さを感じるとともに、これからも建設産業は地域にとってなくてはならない存在なのだと感じました。その当時、復興のために尽力していただいた建設作業員の力があってこそ今があり、私たちの今の働きがこれからの地域の存続に役に立っています。

他にも、堤防や道路といった目に見える形のものだけでなく災害に備えたパトロールも建設産業の大事な仕事です。私がやっていた河川のパトロールでは、川の水位が上がった場合に実際に巡視するコースを走り異常がないか確認し有事の際に備えていました。また冬には雪が降りそうときは道路をパトロールし融雪剤を散布するのも建設産業の仕事です。それ以外にも訓練なのに本当に土のうを作って並べたり、重機を動かしたりして本番さながらの状況で建設産業は災害に備えています。災害が起こったときこういった日ごろの訓練の積み重ねがあってこそ迅速に対応できるのです。

災害時にまず一番初めに動いて地域の復興のために働くのは建設産業です。しかしその建設産業は人出不足が続いています。日本全体で労働人口が減少する中、特に建設産業は減少傾向が顕著で、就業者数はピーク時と比べると約七割となっています。人出不足による企業の倒産も増え、建設産業は今窮地に立たされています。そんな建設産業は若い人たちに入職してもらおうと長時間労働の働き方を見直したり、賃金を上げ待遇を見直したり様々な取り組みを行っています。また最近は建設キャリアアップシステムといって技能者が、技能・経験に応じて適切に処遇される建設業を目指して、技能者の資格や現場での就業履歴等を登録・蓄積し、能力評価につなげる仕組みも作られました。こうした取り組みのおかげで、実際に建設産業に従事する一人の感想として、昔よりずいぶん働きやすくなってきたと思います。そういった建設業の新しい魅力や昔から変わらない自分たちの手で自分たちの町を良くするやりがいをもっと広めて、今後も建設産業が持続可能な産業であり続けるためにぜひとも若い人に建設産業へ入ってもらいたいと思います。





三重建協女性部会「パールこまち」 令和6年度活動報告

女性部会主催のセミナー 「品質・安全性を高めるコミュニケーション講座」の開催



女性部会主催でコミュニケーション力を培うためのセミナーを熊野会場・四日市会場・松阪会場の3会場で実施しました。講師にEnjoy Lifeの代表者、黒田美和氏を迎え、第1部ではコミュニケーションがなぜ必要なのか・相手に伝えるためのスキルを5W1Hを意識した会話の実践を交えながら講義いただき、建設現場でのコミュニケーションについて意見交換を行いました。第2部では、参加者のうちベテランの方々から体験談を各グループに分かれてお話しいただきました。3会場で総計130名以上の方々に受講いただくことができました。

参加者からは「自分のコミュニケーションのとり方を見直すことができた」・「普段年上の方へ抱いている疑問、仕事への疑問などについて、他の建設企業で働くベテラン技術者の考えを聞くことができた」などの声をいただきました。

セミナー開催のノウハウをブラッシュアップし、来年度も引き続き皆さんに受講いただけるようなセミナーを開催していきたいと思えます。

岐阜県建設業協会女性部Rengeとの交流会の実施



男女共に働きやすい職場環境づくりの取組みへ向けての情報共有を行うことを目的に岐阜県建設業協会女性部の皆さんとの交流会を実施しました。

初めにお互いの活動状況の報告を行い、その後グループに分かれて意見交換を行いました。

意見交換では、若手社員の定着促進・建設業を目指す女性を増やす取組み・復職しやすい企業づくりなど日頃働く中での共通の悩みや課題について共有することができました。

他の団体の交流会により「パールこまち」の活動の質の向上に取組みたいと考えています。

Instagramでの情報発信

SNSグループを中心にセミナーや交流会などの女性部会の活動や女性部会のメンバー紹介・各企業での取組み状況などを日々Instagramで情報発信しています。

12月末時点会員企業の皆様や会員外さん・関連団体さんなど632名の方々にフォローいただいています。情報発信(提供)者も増加傾向にあり、三重県建設業協会及び会員企業の情報発信ツールとしての活用が進んでいます。

現在SNSグループではどういった方々にフォローしていただいているかの調査を行っており、今後の投稿内容やフォロワー数の増加に向けて日々、取組んでいます。



PEARLKOMACHI0322



建設産業女性定着支援ネットワークへの加入



建設産業で働く女性の入職促進、定着を図ることを目的に設立された女性の定着を推進する活動を行っている団体による「建設産業女性定着支援ネットワーク」へ三重建協女性部会と三重県が共催で加入しました。

8月にオンラインで開催されたブロック意見交換会に参加させていただき、他団体や他県の職員の方々とは建設業の課題などについて意見交換を行いました。

また他団体さんの活動なども知る機会となりましたので来年度以降の部会の活動に活かしていきます。

伊勢工業高校女子生徒との交流会の実施



建設業で働く誰もが働きやすい職場となるには、若い女性の考えを取り入れ、現場環境を改善し女性活躍を実現することが必要です。未来の女性技術者である伊勢工業高校女子生徒の皆さん・三重県職員の皆さんと女性部会のメンバーで交流会を実施しました。

交流会は①働く環境などについて疑問に思うこと、②若手社員等が仕事・職場になれるための取組、③建設現場以外の仕事について・現場技術者以外の職種などの項目について生徒さんから質問を受け、女性技術者が答える形式で行いました。

5グループの少人数に分かれて実施したこともあり、どのグループも和やかな雰囲気の中で交流することができ、生徒さんからは「質問を聞きやすかった」「毎年開催してほしい」などの声がありました。

女性部会とリーダー・サブリーダー会の実施



女性部会では、上記の行事のほか女性部会(全体会議)・各グループ(セミナー・交流会・SNS)のリーダー・サブリーダーをそれぞれ年4回実施し、部会立ち上げの目的である男女共に働きやすい職員環境づくりに向け奮闘中です。各会社でのお仕事に加え女性部会の活動に日々、ご尽力いただいております。又、三重県職員の皆様にもご出席いただいております。

次回は3月6日(木)に開催予定です。来年度の活動内容について協議します。今後とも女性部会の活動にご理解ご協力よろしくお願いします。

KKS 株式会社 建設経営サービス

建設企業のキャッシュフローの改善を支援します

KKS金融サービスのご案内

KKS出来高融資

「KKS出来高融資」は、国土交通省が創設した『地域建設業経営強化融資制度』に基づき、工事の出来高に応じて融資を受けることができるサービスです。工事の出来高に応じて資金を回収できるため、キャッシュフロー改善の一環として、是非ご利用をお勧めいたします。

担保は不要

工事請負代金債権を担保とするので、保証人や、不動産等の担保は不要です

新たな資金調達手段を確保

金融機関とは別に資金調達が可能になります

キャッシュフローの改善

資金調達日を確定することにより、資金繰り計画を立てやすくなります

経審上も有利

出来高融資での借入金は、経営事項審査の経営状況分析における「負債回転期間」の負債合計から控除されます

まずはお電話ください ☎ **03-3545-8534**

発行人・お問い合わせ先

東日本建設業保証株式会社グループ

株式会社建設経営サービス

(貸金業登録番号 関東財務局長(5)第01480号)

金融第一部

〒104-0045 東京都中央区築地5-5-12

URL <https://www.kks-21.com> TEL 03-3545-8523 FAX 03-3545-8530

金融第二部 東京都中央区築地5-5-12 TEL 03-3545-8523

宮城営業所 宮城県仙台市青葉区支倉町2-48 TEL 022-262-8622

愛知営業所 愛知県名古屋市中区武平町5-1 TEL 052-962-3525

石川営業所 石川県金沢市弥生2-1-23 TEL 076-242-1285

会員の異動

● 会員の代表者の変更

令和6年12月2日 理事会

支部	変更事項	変 更 前	変 更 後
亀山	代 表 者	島内建設(株) 代表取締役 阪 井 裕 文	島内建設(株) 代表取締役 前 川 法 和
	代 表 者	白川建設(株) 代表取締役 服 部 清	白川建設(株) 代表取締役 中 川 崇 沖
	代 表 者	西村建設(株) 代表取締役 西 村 登	西村建設(株) 代表取締役 西 村 勝 弘
伊勢	代 表 者	㈱丸宗土建 代表取締役 川 本 幸 宏	㈱丸宗土建 代表取締役 山 口 圭 造
熊野	代 表 者	㈱川上組 代表取締役 川 上 景 士	㈱川上組 代表取締役 川 上 貴 央

● 役職の変更について

支部	変更事項	変 更 前	変 更 後
亀山	役 職	白川建設(株) 代表取締役社長 服 部 清	白川建設(株) 代表取締役会長 服 部 清

● 会員の退会

支部	会 社 名	代 表 者 名	所 在 地
尾鷲	中村建設(株)	代表取締役 中 村 暢	尾鷲市三木里町275-42

主たる会議

◎11月26日 10時00分から

・11月技術者育成委員会

WEB会議

議題

- 1、女性部会のセミナー
・実施状況の報告（熊野会場）
- 2、企業及び技術者等の現状把握についてアンケート
・実施方法
- 3、高校生現場見学会
・今年度の実施状況の報告
- 4、技術力向上支援研修会の実施状況
・資格取得支援研修会の実施状況
・CPDS取得支援研修会の実施状況
・来年度に向けての提案
- 5、技術者等の定着・育成について
- 6、次回の技術者育成委員会（2月）

◎12月2日 11時30分から

・12月正副会長会議

三重県建設産業会館 4階北会議室

正副会長会議協議事項

- 1、過去の災害対応訓練について
- 2、代表者変更等に関する尾鷲支部長との協議

常任理事会事項

理事会承認事項

- 1、代表者等の変更について
亀山支部
- 2、令和7年度総会日程について

理事会報告事項

- 3、代表者の役職変更および会員の退会について
・亀山支部、尾鷲支部

理事会事項

総会承認事項

- 1、定款の改正について

理事会承認事項

- 2、代表者等の変更について
・亀山支部、伊勢支部、熊野支部
- 3、令和7年度総会日程について

理事会報告事項

- 4、代表者の役職変更および会員の退会について
・亀山支部、尾鷲支部

その他

- 5、1月16日安全祈願祭および賀詞交歓会について

- 6、令和6年度今後の事業予定

- 7、CCUSについて

◎12月2日 14時30分から

・12月常任理事会

グリーンパーク津 安濃の間

理事会承認事項

- 1、代表者等の変更について
・亀山支部
- 2、令和7年度総会日程について

理事会報告事項

- 3、代表者の役職変更および会員の退会について
・亀山支部、尾鷲支部

◎12月2日 16時10分から

・12月理事会

グリーンパーク津 安濃の間

総会承認事項

- 1、定款の改正について

理事会承認事項

- 2、代表者等の変更について
・亀山支部、伊勢支部、熊野支部
- 3、令和7年度総会日程について

理事会報告事項

- 4、代表者の役職変更および会員の退会について
・亀山支部、尾鷲支部

その他

- 5、1月16日安全祈願祭および賀詞交歓会について

- 6、令和6年度今後の事業予定

- 7、CCUSについて

◎12月10日 10時00分から

・12月事務長会議

WEB会議

報告事項

- 1、第10回災害対応訓練について
- 2、令和6年度12月開催の役員会の概要について
・実質的経営権を有する者の変更の会員への周知について
・一見勝之知事の県政報告会の開催予定
・定款の改正について
・令和7年度総会日程について
・令和7年安全祈願祭および賀詞交歓会について

- ・令和6年度 今後の事業予定
 - ・3月開催の協会及び関連団体理事会等の日程
- 3、その他
- 4、次回の事務長会議 3月28日(金) WEB開催

◎12月10日 14時00分から

・県立高校(建設関係学科設置校)進路指導担当教諭との情報交換会

三重県建設産業会館 4階会議室

情報交換

- 1、若年建設従事者入職促進事業の概要について(協会)
- 2、教育機関との連携取組について(県)
- 3、進路指導の現状、卒業者の動向等について(学校)
- 4、意見交換

◎12月16日 13時30分から

・12月土木委員会

三重県建設産業会館 4階会議室

協議事項

- 1、警備業協会からの情報提供
 - ・AIを用いた配置効率の向上について
- 2、第10回災害対応訓練のふりかえり
- 3、第11回災害対応訓練の開催場所と開催時期
- 4、CCUSについて

三重県県土整備部との意見交換

その他の会議・研修等

- | | | |
|------------|---|--------|
| 11月16日 | 津市空き家無料相談会 | [津市] |
| 11月18日 | 令和6年度 三重県職業能力開発促進大会 | [津市] |
| 11月18日 | 高校生現場見学会(四日市中央工業) | |
| 11月19日 | 高校生現場見学会(四日市工業) | |
| 11月19日 | (公財)建設業福祉共済団 令和6年度第2回運営専門委員会 | [東京都] |
| 11月19日 | i-Construction中部ブロック推進本部 令和6年度 実務担当者会議 | (Web) |
| 11月19日 | 三重県年金委員・健康保険委員大会(研修会) | [津市] |
| 11月19日 | 令和6年度三重県産業教育懇談会 | [津市] |
| 11月19日 | (一社)全国建設業協会 全国会長会議 | [東京都] |
| 11月21日 | 令和6年度「三重県建設雇用改善推進大会」 | [津市] |
| 11月25日 | 高校生現場見学会(近大高専) | |
| 11月28日 | 建設技術フェア2024 in 中部 第12回中部ライフカードTEC2024～防災・減災・危機管理展～合同開会式 | [名古屋市] |
| 11月28日 | 東日本建設業保証(株) 取締役会 | [東京都] |
| 12月1日 | 桑名市空き家・住宅相談会 | [桑名市] |
| 12月1日 | 鈴鹿市空き家無料相談会 | [鈴鹿市] |
| 12月3日 | テロ対策三重パートナーシップ推進会議
テロ対策合同訓練 | [志摩市] |
| 12月4日～11日 | コンプライアンス研修会 | (Web) |
| 12月5日～6日 | 令和6年度連携団体職員合同研修会 | [東京都] |
| 12月8日 | 松阪市空き家無料相談会 | [松阪市] |
| 12月12日 | (一社)全国建設業協会 地域懇談会等における諸問題の意見交換会 | [東京都] |
| 12月12日 | 伊勢工業高校女子生徒との交流会 | [伊勢市] |
| 12月13日 | 新会計ソフト導入にかかる集合研修(第1回) | [津市] |
| 12月18日 | 令和6年度 解体工事に係る連絡調整会議 | [津市] |
| 12月23日 | 第1回 三重県木造利用推進連絡会 | [津市] |
| 12月23日 | 第3回みえの木建築コンクール第2回審査会 | [津市] |
| 12月23日 | 令和6年度 第2回品質管理監査会議 | [津市] |
| 12月24日～26日 | 令和6年度建設業経理事務士 3級特別研修(伊勢工業)(17名) | [伊勢市] |

建退共からのお知らせ 建退共制度のご案内

この制度は、建設現場で働く方々のために、「中小企業退職金共済法」という法律により国が作った退職金制度です。事業主の方は、現場で働く方々の共済手帳に働いた日数に応じて、掛金となる共済証紙を貼り、その労働者が建設業界で働くことをやめたときに、建退共から退職金を支払うといういわば業界全体での退職金制度です。

国の制度 5つの 特長

1 国の制度なので安全確実かつ簡単

退職金は国で定められた基準により計算して確実に支払われます。手続はきわめて簡単です。

2 退職金は企業間を通算して計算

退職金は、A企業からB企業にかわっても、それぞれの期間が全部通算して計算されます。

3 国が掛金の一部を補助

新たに加入した労働者（被共済者）については、国が掛金の一部（初回交付の手帳の50日分）を補助します。

4 掛金は損金扱い

掛金は、税法上全額について、法人では損金、個人企業では必要経費として扱われます。（法人税法施行令第135条第1号、所得税法施行令第64条第2項）

5 経営事項審査で加点

公共工事の入札に参加するための経審において、制度に加入し履行している場合には、加点評価されます。

（注）資本金または出資金が1億円を超える法人の法人事業税には、外形標準課税が適用されますので、ご注意ください。

お問い合わせは

独立行政法人
勤労者退職金共済機構

建退共三重県支部

〒514-0003 津市桜橋2丁目177-2

☎059-253-6505

助け合い、未来を創る。



建設業界による自主的な
共済保険で保険料が安い。

元請・下請問わず
無記名で補償。

元請・下請それぞれの
保険契約者へ重複支払い。

企業の諸費用部分も補償。

事業主（保険契約者）への
速やかな支払い。

経営事項審査において
15点の加点。

公益財団法人
建設業福祉共済団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー11階

（取扱機関）（一社）三重県建設業協会 〒514-0003 津市桜橋2-177-2 TEL.059-224-4116 FAX.059-228-6143

詳しい情報、保険料試算など
お問い合わせは

Tel. 03-3591-8451

<http://www.kyousaidan.or.jp/>

「建設共済保険」の他にも、次のような事業を行っています。

育英奨学
事業

被災者（死亡および身体障害・傷病3級以上）の子供に
対して、要保育期間および小学校から大学までの在学
期間中、返済不要の奨学金を継続して給付。